

アンケートの結果について

先日お願いいたしましたアンケートは、熱心な方々から五十通近くの御返事を頂きました。以下お寄せ頂いた御意見の主なものを御報告します。

1. 会誌をどの程度お読みですか、の間には全部の方が、毎号よく読む、或いは毎号ざっと目を通すというところに○をつけておられました。これによりますと会誌はかなりよく読まれているということになります。回答を下された方々は会員の中でも特に熱意のある方々と思しますので、これだけから全体の様子を推定してもバイヤスをふくむことになるのではないかと思います。

2. どんな論文や記事をもっとよくお読みになりますか、の間に対しては、L. P., D. P. Queue, Inventory, Traffic, Game, Productionscheduling 等々のテーマを上げられた方、解説記事、文献抄録、学界展望等と書かれた方がありましたが、特によく読まれるテーマ等ははっきりしませんでした。

3a. 内容については多数の方は適当と思うとされていましたが、数通偏っているという回答がありました。それらの方々の指摘される点はいずれも、数学的でありすぎ、著書自身の興味に走りすぎて、実際的な応用に役に立たないものが多いということでありました。

3b. 書き方は、大体はわかりやすくて適当とさ

れていましたが、内容が偏っていると回答された方々はわかりにくいとされてきました。また一概にはいえないという回答もありました。

3c. 装訂等については、欧文誌が貧弱である、大版にすべきだ、また邦文誌の表紙の色が暗いという御意見がかなりありました。またミスプリントが多いという御指摘もありました。前の点につきましては巻の途中でスタイルを変えることもできませんが、来年度からは御希望に沿うように型、表紙等を再検討したいと思っています。また、ミスプリント等につきましては、前号では大分御迷惑をおかけ致しましたが、今度紀伊国屋書店で発行して頂くことになり、それらの点も改善されるものと期待しております。

4. 今後掲載を希望する記事については、あげられた項目それぞれについて御希望があるようで、特に票の集まった項目はなく、また逆に特に不要とされるような項目もないように思われました。

5. その他の御希望では、発行度数が少ない、定期刊行を守れという御意見がかなりありました。この点については前号の編集後記でもおわび申し上げましたが、今後刊行の遅れないよう充分努力致したいと思っております。

以上お忙しい中を御意見をお寄せ下さった方々にお礼を申し上げますとともに、御希望にそえますよう努力致したいと思っております。

刊行物委員会

第4回研究発表会について

1958年11月16日～18日まで本学会の生みの親の一人である目崎憲司氏が学長をしておられる下関商業短期大学で開かれた。

その概要はプログラムにあるように、第1日と第2日の午後まで200名以上の参会者の出席の下に25件の研究発表と質疑応答があり、その後市内見学を行なった。なお第1日夜は下関市長の招宴があり、第2日夜は下関市民のための公開講演会が開かれた。また第3日はバスで秋色濃い秋芳洞・秋吉台を探勝して一日を過ごし、大会の幕を閉じた。ここに目崎氏はじめ下関市長以下現地の方々の御好意に深く感謝する次第である。

研究発表会

11月16日(日)

(1) Prediction Theory and Dynamic Prog-

ramming 小田中敏男(都立工業短大)

(2) Dynamic Programming の一解法

森 英男(電気試験所)

(3) 手の情報について 坂口 実(電気通信大学)

(4) 情報理論と標本調査について

国沢清典(東京工業大学)

(5) Some Queuing Problems

河田竜夫(東京工業大学)

(6) 踏切道の容量について

宮本俊光(日本国有鉄道)

(7) パラメトリック、リニヤール、プログラミングに関する若干の考察 松田武彦(東京工業大学)

(8) ガンマ乱数の作成—FACOM 128 による—

高橋盤郎(有隣電機)

(9) n 桁・ $2n$ 桁による Linear Programming の計算 平野菅保(有隣電機)

(10) 貨車集結の問題について

- 大平 垣(日本国有鉄道)
- (11) 経済的操車場規模の試算
西田正之(日本国有鉄道)
- (12) 情報理論から見た混合交通流の特性について
佐々木 綱(熊本大学)
- (13) 目的の評価に関連して 宮沢光一(東京大学)
岡田 修(三井金属)
- (14) 鉱山業のビジネス・ゲームについて
岡田 修(三井金属)
奥村誠次郎(日本鉱業)
菅波 三郎(三菱金属鉱業)
- (15) 模型企業の構成について
大沢 豊(上智大学)
宮下藤太郎(東京大学)
- 11月17日(月)
- (16) 産業連関モデルによるベアリングの需要予測
- (17) 在庫管理 水野幸男(日本電気)
- (18) バス輸送に関する一例 原野秀永(東芝)
- (19) 蒸気機関区における混炭作業の研究
卜部舜一(日本国有鉄道)
岩瀬雄次()
大谷敏久()
- (20) 入札の理論について
森口繁一(東京大学)
菅波三郎(三菱金属鉱業)
- (21) 日次生産量決定のための一試案
朝尾 正(田辺製薬)
- (22) ETL Mark-4 による Dynamic Programming の解法
蓼沼良一(電気試験所)
- (23) 鉄道における動力車の動力消費量に関する研究
松井一三(日本国有鉄道)
- (24) Dynamic Programming の林業への応用
(2) —間伐について—
有水 彊(林業試験所)
- (25) 落石現象およびその防護についての確率的考察
阿部俊一(日本国有鉄道)
- 公開講演会
- (1) 経営と数理科学
東京大学教授 工学博士 森口繁一
- (2) 日本の企業におけるオペレーションズ・リサーチ
東洋紡績株式会社 品質課長 関 和文

編集後記 年末のあわただしさも身近になった今日この頃、編集の仕上げに忙殺されていますが、皆様のお手許に本誌の届くのは年もあけて、お仕事に、御研究に新しい英気をもって御精励の頃と存じます。なによりもまず報告しなければならないことは、先般の理事会の決定に従って、本誌印刷、発送の仕事を、本号より、あげて紀伊國屋書店に依頼したことです。今までは刊行委員が印刷所を探して頼みこまなければならなかったり、出張校正をしたり、それでもミスだらけでお叱りを受けたり、煩わしい仕事が実に山積していました。今後はそうした事務はすべて紀伊國屋書店に依頼して——勿論、一切の責任は当学会にあるのですが——刊行物委員は原稿の収集、編集だけに専心できるようになったことを喜んでいます。

このことに関連して、先般のアンケートについての御協力に感謝しなければなりません。御回答の大体の傾向は別記の通りですが、英文、和文を含めて、本会誌の体裁をスマートにすることとか、内容等につきましても、今後、御趣旨に沿って編集を進めたいと願っています。さし当って本巻の終了までは従前の形式を踏むことにして、巻が改まるとともに、面目を一新してお目見えしたい意向です。御協力のほどお願い申し上げます。
(宮沢)